



2025 年 7 月 30 日
株 式 会 社 J E R A
株式会社 JERA Cross
東日本旅客鉄道株式会社
株式会社 JR 東日本商事
株式会社千葉ステーションビル

**JERA グループと JR 東日本グループが千葉県内の駅ビル・ペリエの 4 施設に
『千産千消』の太陽光発電によるオフサイト型コーポレート PPA を導入します**

- 株式会社 JERA（以下「JERA」）と東日本旅客鉄道株式会社（以下「JR 東日本」）は、オフサイト型コーポレート PPA（電力と環境価値を敷地外にある発電所から需要家に供給する仕組み）の導入に向けた基本合意書を締結し、取り組みを推進しています（※1）。
- 今回は、株式会社千葉ステーションビル（以下「千葉ステーションビル」）が、2025 年 8 月 1 日よりペリエ西千葉本館、ペリエ海浜幕張西館、ペリエ海浜幕張東館、ペリエ+plus ビルに、千葉県内に設置された『ペリエ太陽光発電所（愛称）』由来の再生可能エネルギーを供給する『千産千消』^{ちさんちしょう}（※2）のオフサイト型コーポレート PPA（※3）を導入します。JERA を太陽光発電事業者、株式会社 JERA Cross（以下「JERA Cross」）をアグリゲーター（※4）、株式会社 JR 東日本商事（以下「JR 東日本商事」）を小売電気事業者とします。
- 再生可能エネルギーのオフサイト型コーポレート PPA を通じ、JERA グループと JR 東日本グループは脱炭素社会の実現に向け、継続的に取り組みます。

（※1）【参考】2025 年 1 月 15 日付プレスリリース：

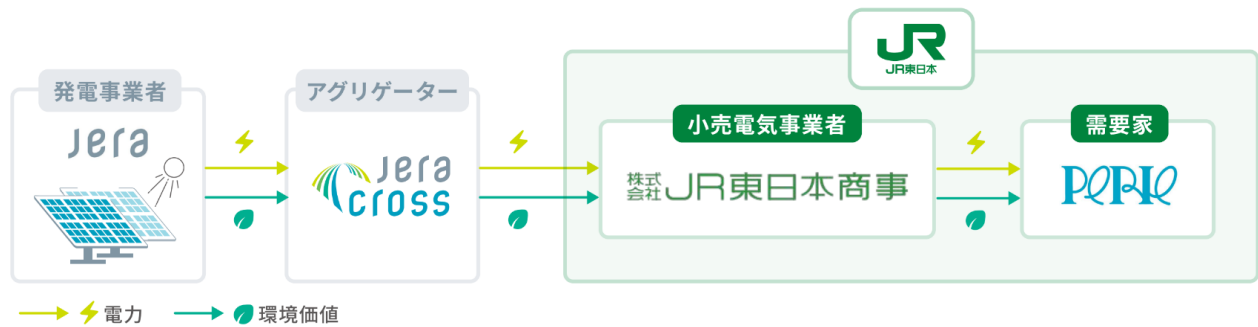
JERA と JR 東日本によるアトレおよびルミネへの太陽光発電によるオフサイト型コーポレート PPA の導入について

https://www.jreast.co.jp/press/2024/20250115_ho01.pdf

- （※2）地域で生産された様々な生産物や資源をその地域で消費することを「地産地消」といい、千葉県では、「地」を千葉県の「千」に変えて、「千産千消」と呼んで、県内の学校等で地場産物を活用する取り組みを推進しています
- （※3）オフサイト型とは、電力を利用する場から離れた敷地に発電設備を設置する仕組み。発電した電力は、送配電ネットワークを経由して需要家（電力の使用者）に供給される。コーポレート PPA（Power Purchase Agreement）は、発電事業者や小売電気事業者と需要家との間で行われる、再生可能エネルギーの発電・電力売買するための電力契約のこと
- （※4）複数の発電設備や蓄電設備等のエネルギーリソースを束ねて一元管理する事業者のこと

1. 本件の概要

JERA が保有する千葉県内 4 ヶ所の太陽光発電所（合計容量：300kW）で発電した電力と環境価値を、アグリゲーターの JERA Cross が束ね、小売電気事業者の JR 東日本商事を通じて、千葉ステーションビルが運営するペリエ西千葉本館ほか 3 施設に供給します。千葉県内で発電し、供給される太陽光発電所由来の再生可能エネルギーを県内のペリエで消費する『千産千消』のオフサイト型コーポレート PPA を導入します。太陽光発電所の愛称を『ペリエ太陽光発電所』とすることで、地域に親しみやすく、そして地域のエネルギーにコミットする存在にしたいという思いを込めました。



『ペリエ太陽光発電所』によるオフサイト型コーポレート PPA 導入イメージ

・供給開始：

2025 年 8 月 1 日（予定）

・供給先：

ペリエ西千葉本館、ペリエ海浜幕張西館、ペリエ海浜幕張東館、ペリエ+plus ビル

・太陽光発電所の概要：

名称	愛称	所在地	容量 (kW)
JERA ソーラー館山 4	ペリエ太陽光発電所館山那古	千葉県館山市那古	50
JERA ソーラー香取 4	ペリエ太陽光発電所香取山之辺	千葉県香取市山之辺	50
JERA ソーラー香取 8・9・10	ペリエ太陽光発電所香取八本	千葉県香取市八本	150
JERA ソーラー銚子 24	ペリエ太陽光発電所銚子芦崎町	千葉県銚子市芦崎町	50



ペリエ太陽光発電所館山那古



ペリエ西千葉本館

・導入効果：

約 236 t-CO₂/年（一般家庭約 140 世帯分相当）の CO₂ 排出量を削減

2. 両グループの取り組みについて

(1) JERA グループ

JERA グループは「JERA ゼロエミッション 2050」を掲げ、2050 年時点で国内外の事業から排出される CO₂ の実質ゼロに向けて、再生可能エネルギーの拡大に加え、発電時に CO₂ を排出しないゼロエミッション火力の開発に努めています。

(2) JR 東日本グループ

JR 東日本グループは、2020 年に環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」を策定し、2050 年度の JR 東日本グループ全体の CO₂ 排出量「実質ゼロ」に挑戦しています。



両グループの取り組み イメージ